

第二 政務機構並人事及事務ノ刷新

一 對新行政機構問題ト日滿支經濟協議會

昭和十五年三月四日畑陸相ノ議會ニ於ケル答辯ハ機構ノ根本的改革ノ意志ヲ表明セルモノニアラス現制ヲ生カシ各廳總掛ノ趣旨ヲ強調シ改革ハ必要アラハ研究スル意ナリ

二十五年夏頃以降ニ對滿事務局一部職員カ内面指導ヲ内閣ニ移サン

ト論議セルニ對シテハ左ノ理由ヲ表明シテ之ヲ封シタリ

(1) 滿洲ノ治安完成セリト内地文官カ斷定ヲ下スハ潛越ニシテ實情

ヲ知ラサル論ナルコト

(2) 滿洲國日系官吏ヲ日本ノ官吏カ指導スルコトハ干涉ニ墮シ滿洲

國指導方針要綱ノ精神ニ逆行スルノ結果ヲ招來スルノ虞アルコ

ト

(イ) 對滿政策ハ軍、政府、滿鐵ノ關係ヲ律スル要アルモ軍ノ要求ハ
 軍自ラ之ヲ調整スルニテサレハ今日以上幾多ノ摩擦生スヘシ
 (ロ) 一旦緩急アラハ即時取時態勢ニ移行スル要アルヲ以テ此ノ態勢
 ニ最モ近キ情態ニテ現制ヲ改ムルハ時局ノ要請ニ逆行ス
 (ハ) 汪政権承認ニ伴ヒ對支政務機構ヲ調整シ形式上外政機關タラシム
 ルニ際シ對滿事務局モ亦之ニ倣ヒ且南洋關係機構ヲ整備シ以テ對
 共榮圈政務機構ヲ一元的ニ綜合セントスル論議ハ與野院、外務省、
 海軍省等ノ一部ニ某程度進ミタルモ陸軍ハ關東軍ノ内面指導力確
 保ノ必要絶對ナルニ信シ同意セス其理由左ノ如シ
 (ウ) 昭和八八八閣議決定ニ於テ内面指導ハ軍司令官兼全權大使カ行

フ如ノ記述セラレ其表現明確ヲ快キタルハ當時ノ國內情勢上已
 ヲ得サリシモ事實問題トシテ寧ラ軍司令官之ヲ行ヒ來レリ今後
 モ軍司令官ナラサルヘカラス而シテ現制ニ於テモ外務省ノ一部
 ニハ外交ニ關スル限リ大使内面指導ヲ行フヘキモノナリトスル
 者アリ一陸軍ハ本主張ニハ徹底的ニ反對シ來レリ一從テ假令形
 式上ト雖對滿事務局ヲ外務省ニ入レ又ハ其外局トスルトキハ大
 便ノ系統ニ於テ滿洲國ヲ指導スル結果ヲ招徠スルノ虞極メテ大
 キシテ其結果指導ニ元的トナリ無用ノ摩擦ヲ生シ特ニ文官ノ行
 フ内面指導ハ内政干涉ニ墮スル虞大ナリ本件ハ現ニ支那ニ於ケ
 ル軍、連絡部ノ關係ニ於テ現實ノ弊害ヲ認メアルコト周知ノ通
 リニシテ殊ニ滿洲國ニハ優秀ナル日系官吏多數入りアルコトヲ
 ノル

忘ルヘカラス

(四) 現地機關ハ右ノ如ク軍司令官ノ一元的指導ニヨリ特ニ政治ノ獨立ヲ尊重スヘキモ經濟ニ關シテハ東京ニ於テ日滿支ヲ綜合スル必要アリ而シテ經濟ノ計畫ノ實施ノ調整ノ如キハ外交々渉ニ依ルヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ事實上ノ協議機關ヲ内閣ニ置キ企畫院ヲ中心トシテ處理セラルルコトトナレリ右措置ニヨリ日滿支ノ經濟ノ多様化ヲ期シ得ラルルニ至ルヘキヲ以テ政治關係ノ緩濶ヲ外政機構ニ一元化スルノ必要ハ解消スルモノト考ヘアリ

又對滿事務局ノ入幕ニ軍力大ナル關心ヲ持ツ所以ハ軍ノ外局タル關係ニ於テ軍ト一體タル要アルヲ以テナリ從テ調整以上ノ移動ハ豫

メ軍ニ協議シ來ルヲ例トシ軍ハ必要ノ場合在職間ノ協力ニ對シ其

轉任先ヲ進ンテ斡旋スル如ク注意スヘキモノナリ
 統一保持ノ機關ニ濫ニ事務官ヲ増加スルハ一考ヲ要ス對滿認識ヲ
 誤リ大局的判斷力ニ乏シキ事務家ヲ置クヨリモ却テ一時缺員トス
 ルヲ可トスル場合アリ、特ニ課長ハ古參者ニシテ折衝能力十分ナ
 ラサルヘカラス而シテ次長ノ政治的手腕ハ外部折衝、内部統制上
 意義莫大ナリ

5. 日滿文經濟協談會ハ特ニ事務局ヲ重視スルモノニシテ事務局ハ少
 數有能ノ士ヲ以テ組織シ、日滿文綜合經濟ノ「プレーン」、トラスト
 タラサルヘカラス而シテ表面的ニハ余リニ滿洲色ヲ帯ヒサル如ク
 政治的考慮ヲ拂フ要アリ對滿事務局ニ滿洲國官吏タリシ者ヲ配置

スル場合モ亦然リトス

三、滿洲國大使館及領事館

一、大使館ハ從來留日學生ニ關スル事項ヲ除ケハ概シテ日滿間ノ些細ナル事務連絡ニ任シタル狀況ナリシカ皇帝御訪日ニ關スル行軍一段落ヲ見タル後左ノ趣旨ニ基キ整備強化セラル

(1) 首席參事官ノ統轄的地位ヲ確立シ特ニ經濟處ヲ統制セシム

(2) 經濟處所管事務遂行ニ秩序統一アラシム

(3) 大使館本來ノ使命タル弘報ニ力ヲ用ヒ日本一般ノ對滿認識ヲ向上シ又日本ヲ中心トスル計畫經濟ニ必要ナル資料ヲ整備セシム

2 學務處ト留日學生會館トノ間ニハ留日學生會指導ノ責任歸屬ノ不

明確、滿洲國ヨリ支給スル補助金ノ使途ニ關スル意見ノ相違等ア

1765

リ延テハ會館ニ派遣シアル學務處員ト會館職員トノ融和ヲ審シ留
 日學生ニモ此等ノ空氣反映スル虞アリタルニ鑑ミ軍ニ於テ指導ヲ
 加ヘ左ノ如ク調整セリ本件ハ先ツ大使館ト會館ト協議シ次テ滿側
 ニ承認ヲ得更ニ文部、外務兩當局ニ諒解ヲ求ムル順序ヲ踏メリ
 (1) 學生會副會長タリシ會館長ヲ學生會東京支部長トナシ在京學生
 ノ指導ニ專念セシム

(2) 東京以外ハ會長タル大使指導シ補助金ニ直接交付シ會館ヲ經由
 セス會館内ニ在リシ會本部ヲ派遣職員ト共ニ大使館ニ引上ク
 (3) 學生直接ノ指導ハ支部長以下ノ活動ニ期待スルコトトシテ會本
 部ヲ中央事務所ト改メ全國的行事ヲ計畫指導ス

3. 經濟處ト對滿事務局トノ間ニハ意志ノ疎隔スル傾向大ナリ即チ經

19.

濟處カ直接各省ト折衝スレハ事務局ハ浮クヲ以テ經濟處ハ廢止ス
 へキモノニシテ少クモ組織的ナル直接交渉ヲ行フヘカラスト主張
 シ特ニ其ノ整備強化ニ反對シ經濟處ヲ存置スルナラハ之ヲ事務局
 廳舍内ニ於テ執務セシムヘシトスル事務局ノ意見ニ對シ經濟處ハ
 重要事項ニ就テハ事務局ヲ通スヘキモ複雑微妙ナル各種案件ハ直
 接各省ト折衝セサレハ迅速適切ナル解決ヲ期シ得ス其ノ陣容ハ現
 在ノ倍以上ニ強化スルヲ要シ又對滿事務局廳舍内ニテ執務スレハ
 細事ノ干涉容喙ヲ受クヘシト反對シ兩者ノ意見ハ本質的ニ全然反
 對ナリ

對滿行政事務ノ統一保持ニ努力セントスル事務局ノ熱意ハ之ヲ助
 長スル如ク經濟處ハ自ラ秩序ト統一アル事務ヲ執リ滿洲自体ノ細

事ハ經濟處ノ活動ニ容喙セサル如ク事務局ハ大局ヲ把握シ兩者ハ互ニ他ノ使命ヲ尊重シテ協力スル如ク軍ニ於テ絶エス指導スル要アリ蓋シ文官相互ノ感情ハ頗ル微妙ナルモノアリテ割據的、優越的觀念常ニ底流シ互ニ他ヲ警戒シ他ニ負ケサラント努力スル風アレハナリ

又大使館ノ人事ニ就テハ軍務課ヲ補佐シ對滿事務局ヲ始メ關係廳等ト圓滑ニ結ハルルコトヲ第一トシ且爲シ得ル限り滿人ヲ充用スル如ク留意スル要アリ尙關東軍ヨリ連絡協議アルモ努メテ現地策ヲ尊重シ要スレハ參事官等ノ意見ヲモ徵スルヲ適當トス

5. 名譽領事設置ニ關シ函館、敦賀、廣島等ヨリ屢々陳情アリタルモ滿側ヨリノ旅行者特ニ多キ地點ニシテ特ニ適任ノ人物ナキ限り新

21.

設セサル主義ノ下ニ指導シ右何レモ實現ヲ見ス

大阪ニ總領事館ヲ設置スルハ特ニ經濟上重要ナル關係ニ在ルト大
 使館辦事處ヲ強化シ之ヲ公式機關トスルハ第三國トノ關係上外務
 省之ニ同意セサル結果ニ因ル日滿ノ間ニ此ノ種機關ヲ増設スルハ
 主義トシテ適當ナラサルモ大阪有力業者ノ要望ニ對シテ大使館及
 滿洲現地側大イニ動キ久シキ懸案ヲ實現セラル

三、日滿官吏ノ交流

ノ日本ノ官吏ニシテ退官ノ上滿洲國官吏トナリタル者ヲ再ヒ日本官
 吏ニ採用スル場合滿洲ニ於ケル勤務年數ヲ日本ニ於ケル勤務年數
 ト見做ス件ハ從來日系官吏ヲシテ腰掛式氣分ニ墮セシムル虞アリ
 トシテ司意セサリシモ實際問題トシテ官吏ノ交流スルモノ尠カラ

サルニ鑑ミ昭一五一一〇勅令第八八一號公布セラレタリ然レト
 モ單ニ之アルカ爲有價ナル日系官吏ノ滿洲進出ニ大イナル期待ヲ
 掛クルハ適當ナラサルヘク寧ロ滿人層ニハ腰掛的氣分ヲ増スニア
 ラサルヤヲ案スル傾向アリ

尙本件ハ在職三年ヲ超ユル者ニ適用シ度軍ノ意見ナリシモ二年ニ
 テ交流スル者モ事實尠カラサルヲ以テ之ヲ緩和シ努メテ三年以上
 勤務セシムル如ク日滿關係應ニテ諒解ヲ遂ケ運用ニ於テ遺憾ナキ
 ヲ期セントスルモノナリ

2 前項措置ト同時ニ滿洲國日系官吏ヲモ一定條件ノ下ニ日本官吏ニ
 採用スルノ途ヲ開ク如ク措置スルハ現地ニ於ケル日系官吏ノ融和
 團結上其ノ指導ニ意ヲ用ヒアル關東軍ノ要望ナリシモ右ハ日本ノ

23

高文制度ヲ改メサル限り不可能ニシテ本件ハ昭一六、四文官任用ニ關スル勅令ヲ以テ特別任用範圍ヲ擴大セラレタルヲ以テ其ノ範圍ノ運用ニ依リ爲シ得ル限り右要望ヲ滿スコトナレリ

3. 以上ノ如ク日滿官吏ノ交流制度ハ概ネ滿側要望ノ線ニ沿ヒ日本側ニ於テ措置セラレタルモ之カ運営ニ關シテハ待遇問題ヲ濫ニ口ニシテ優秀者ヲ求ムル如キ態度ハ却テ腰掛式氣分ヲ誘發スルヲ以テ之ヲ誠メ又積極的ニ滿側ヨリ有能ナル者ヲ日本ノ樞要地位ニ送り日本ヲ中心トシテ日滿一体ノ實ヲ擧クニ努ムルト共ニ更ニ進ンテ滿洲ニテ訓練シ之ヲ廣ク共榮圈ノ各地ニ配置スルノ着意ヲ必要トスヘシ即チ大和民族ノ源ハ日本ニシテ溜池ハ滿洲ナルヘク之ヨリ廣ク大東亞ニ供給セララルヘシ

四 對滿行政事務ノ刷新

第二ノ一ノ2ニ述ヘタル如ク對滿行政機構ノ改革ハ此際論議ヲ封シタルモ近時日滿間ノ事務就中經濟關係事項ハ其ノ具體的諸問題ノ增加ニ伴ヒ動モスレハ事務ノ停滯ヲ來シ延テハ各省ト現地ト短絡ノ傾向漸次増大スルノ傾向アルニ鑑ミ機構改革トハ別個ニ(事務局ハ改革ニ至ル迄ノ暫定措置タルコトヲ明示スル意見ナルモ拒否ス)事務ノ刷新ヲ圖リ迅速ナル事務處理ト統一保持ヲ圖ルコトク現機構運營方法ヲ研究シ軍務課トシテ左ノ處置ヲ認ムルコトトセリ

(1) 輕易ナル事項ニ限り對滿事務局ヨリ陸軍省軍務課ノ連帶ヲ求メタル上關東軍第四課ニ連絡シ得ルノ途ヲ拓クコト(事務局ハ連帶ヲ求メス且現地ニ對滿事務局事務官ヲ置クコトヲモ考慮スル意見ナ

リシモ拒否)

(四)陸軍省軍務局課員一名ヲ對滿事務局事務官ニ兼補シ適時對滿事務局ニ於テ執務セシメ陸軍省ト對滿事務局トノ事務ノ緊密化ヲ圖ルコト(事務局ハ滿洲班員全部ヲ希望シタルモ拒否)

(ハ)大使館經濟處ヨリ連絡ノ爲所要職員ヲ對滿事務局廳舎内ニ於テ隨時執務セシメ滿洲關係資料ヲモ提供セシムルコト(事務局ハ全員ヲ要望)

(ニ)對滿行政事務統一保持ノ實ヲ擧クル爲日滿關係廳ノ注意ヲ喚起シ

且民間側ノ指導ニ一層留意スルコト

本意見ハ機體改革論ヲ封セラレツツ尙其ノ觀念ヲ脱却シ得サル對滿事務局トシテハ甚タ不満足ニシテハニ付事務局意見ヲ容レラレ度トノ希

26.

1773

望ア、ルモ經濟處ハ速カニ大使館本館ト合一スル要アリ此ノ場合ニ於テ
モ事務局トノ連絡緊密ナル如キ方法即チ(ハ)ノ要領ニ據ルコト適當ナリ

21.

1774